

# 上村洋一 + 小金沢健人

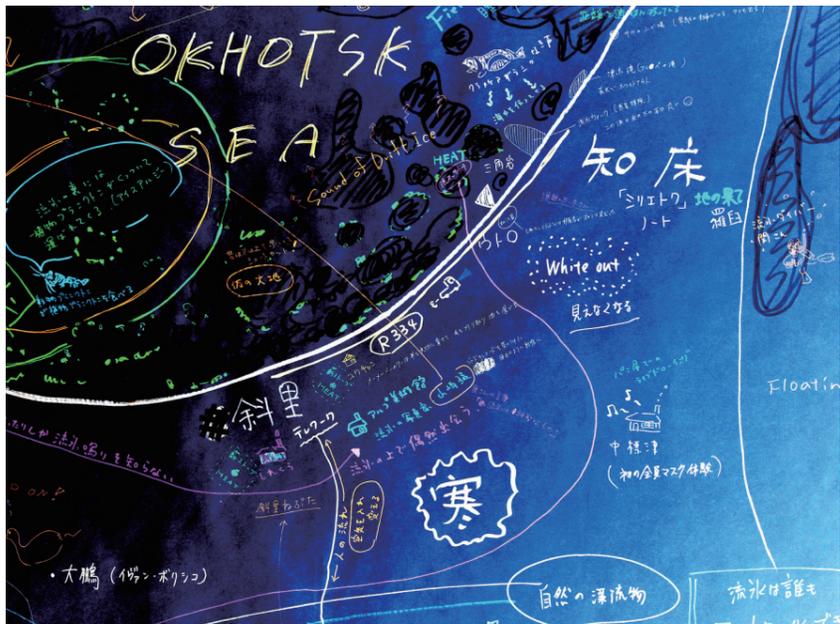
## Yoichi Kamimura + Takehito Koganezawa

インスタレーション  
Installation

空を食べる  
eat the air



《空を食べる》のためのドローイング / Drawing for Eat the Air  
Drawing by Takehito Koganezawa



《空を食べる》のためのマインドマップ (部分) / Mind map for Eat the Air (details)  
Making by Yoichi Kamimura + Takehito Koganezawa

### 生態系の特異点 —— 都市の臓器を開く。新しい空気を吸うために。

札幌駅北口バスターミナル地下には、積雪を集めて融かすための巨大な温水プールがある。人々が寝静まった深夜、ターミナルの地面部分が大きな口のように開き、トラックが大量の雪を投げ込んでいく。そこには都市の見えざる臓器が機能していた。しかし、10トントラック285台分の雪を1日で処理できる能力を持ちながら、ここ数年はわずかな回数しか稼働していないという。「Stay home」「Social distancing」の状況のなか、人間の生活は活動の範囲が狭められ、今までと同じやり方ができない一方で、新たな感覚による行動の様式が徐々にできつつある。そんななか、私たちは都市の周縁の自然——海岸や川べりや山などで、いつもより多くの人たちが、陽の光や新鮮な空気を求めて、お互いの距離を取りながらも寛いで、自然を共有している光景を見た。このような光景は、今まで私たちが経験したことのない不安と寛容性が入り混じった新しい環境だった。この地球の環境は今、気候変動や地球温暖化のように、人間の認識を超えたところで変化を続けている。北海道では、雪を融かしていないプールや年々少なくなっていく流水を目の当たりにした。新型

コロナウイルスもまた、人間が押し量ることのできない事象であり、それは人間の都合とは関係なく突然やってくる。この瞬間に、生態系の特異点がある。私たち生物にとって、もともと原初的な特異点——それは、光合成によってこの地球の大気が不安定・流動的になることで、酸素大気が形成され、その空気を動物が肺呼吸するようになり、海中から陸上へと生活の場を転換したときだろう。それまで生命の循環の場だった海が突如として開け、空気を吸うことによって新しい生命の生態系が大気のなかに広がったのだ。海が開いて空気を食べることによって、新たな生態系が生まれたように、この現代における特異点で発生した不安定な空気を食べ、目に見えないさまざまな事象との関係性を前提に、わたしたちの生きる世界を眺め直してみよう。海中のアザランのエコ音をたよりに、遠くの世界を察知しつつ、隣人との距離感のなかで生きるように。死の可能性をより近くに許しながらも、寛容に満ちた聖なる生態系のために。

[文=上村洋一+小金沢健人]

### “ Ecological uniqueness — opening the organs of the city to breathe new air. ”

A huge heated pool where snow is collected and melted can be found in the underground of the bus terminal at the north exit of Sapporo Station. An invisible organ of the city was functioning there. Although it has the capacity to process 285 10-ton trucks' worth of snow in one day, it has only been in operation a few times over the past few years. The scope of human life has been narrowed, and while we cannot do things the same way as before, we are gradually developing a new style of behavior based on new senses. The environment of this planet is now changing beyond human recognition, as with climate change and global warming. In Hokkaido, we saw pools where snow didn't melt and drift ice that shrank year after year. The COVID-19 is also an event that cannot be predicted by humans, and it comes suddenly regardless of our situation. The ecological uniqueness exists in the moment. The most primordial uniqueness for us organisms is when the atmosphere of the earth becomes unstable and fluid due to photosynthesis, an oxygen atmosphere is formed, animals begin to breathe the air in their lungs, and the place of life is shifted from the sea to the land. The oceans, which had been a place for the circulation of life until then, suddenly opened up, and a new ecosystem of life spread into the atmosphere by breathing the air. As the oceans opened up to eat the air, giving birth to a new ecosystem, let us eat the unstable air generated by this uniqueness of our time and re-evaluate the world in which we live on the premise of our relationship with various invisible events. Like the echoes of seals in the sea, we can perceive the distant world and live in a sense of distance from our neighbors. For a sacred ecology is full of tolerance while allowing the possibility of death coming closer.

Text by Yoichi Kamimura + Takehito Koganezawa

上村洋一

1982年、千葉県生まれ。視覚や聴覚から風景を知覚する方法を探り、主にフィールドレコーディングによって世界各地の環境にアプローチし、そこで得た素材やコンセプトをもとにインスタレーション、絵画、パフォーマンス、音響作品などを制作し、国内外で発表。フィールドレコーディングを「瞑想的な狩猟」として捉え、その行為を通して、人間と自然との曖昧な関係性を考察している。

小金沢健人

1974年、東京都生まれ。武蔵野美術大学造形学部映像学科卒業後、ドイツ・ベルリンで活動した後、2018年からは東京を拠点に活動。映像を出発点に、インスタレーション、パフォーマンスなど表現領域は幅広く、国内外で展示に参加。光と動きを扱い、新たな空間の創出を目指す。

Yoichi Kamimura

Born in 1982 in Chiba Prefecture. Exploring ways of perceiving landscapes visually and auditorily, he approaches environments around the world mainly with field recordings. Based on the materials and concepts he obtains at those locations, he creates installations, paintings, sound performances and music, which are presented both in Japan and abroad. He considers field recording as "meditative hunting" and investigates ambiguous relationships between humanity and nature.

Takehito Koganezawa

Born in 1974 in Tokyo. After graduating from Musashino Art University, he was active in Berlin, Germany. He has participated in a wide range of exhibitions in Japan and abroad, starting with video art, installations and performances since 2018 while based in Tokyo. He produces a unique space employing the movement of lights.

→  
インタビュー動画はこちら  
Watch the video interview.



Photo by Takehito Koganezawa



知床・流水のリサーチ(ウトロ三角岩にて)  
Research for the drift ice in Shiretoko, Hokkaido (at Sankakuwa rock, Utro)

Amazonの森林火災 オーストラリアの森林火災 **GLOBAL WARMING** 海面  
 上昇 **Climate Change** 目に見えない **California**の森林火災 道に迷う Uber eats  
 Amazon インターネット online パーニングマン online “あつまれどうぶつの森” 迷いをポジティブに楽しむ  
**熱 HEAT AIR** コロナ以降熱を計測するように 37.5℃ボーダー 都市の平熱 平熱も決められた  
**PANDEMIC**からだを変革したい! でもつついお酒は飲みすぎてしまう! **Human Body Health**  
 健康 **温熱療法** 鍼灸 気功 冷え取り **熱が環境を整える** HEAT からだをあたためることで、免疫力を高める。  
 からだの環境を整える。 星置 菊地慶一 今は札幌・星置で札幌空襲の本を書いている HEAT サウナ(フィンランド産)  
 半分 浮かぶ Half awake, half asleep **Russia** 北風に乗って マガダン 海流に乗って氷が流れる  
 流水ビール青い! 流水の上で狩猟 Hunting on the ice -8℃で凍るらしい **熱が環境を変化させる** 流水  
 の減少 流水鳴りはもう聞こえない AIR 氷に閉じこめられた空気 **網走** 流水の観察者 菊地慶一 **プラン**  
**クトン** 魚が集まる 流水鳴り 氷の下の空気が潮汐でおし出されて、氷のすき間から人間の呼吸のような  
 音が出る 昔は流水の上で焚き火や宴会をしていた!(今はない) PARTY 氷の宴 仮の大地 架空の土地(氷の土地)  
 を売った詐欺師 **Temporary Ground ecology** 鮭・魚 動物プランクトンを食べる **プランクトン**  
 流水の裏には動物プランクトンがくっついて運ばれてくる(アイスアルジー) 動物プランクトンが植物プランクトンを食べる  
**Drift Ice OKHOTSK SEA** Sound of Drift ice **Field Recording** 瞑想的な狩猟  
**Meditative Hunting** 深夜のレコーディングはヘッドライトの光りをたよりに進んでいく 昔は氷の上を歩いてショート  
 カット! 仮の大地 HEAT 流水サウナ 三角岩 クラカケアザラシのなき声 海中を伝ってくる クマ 最後の生息地  
 クマ クマ 知床はクマと人との距離を適切に扱っている サケのふか場(常駐の夫婦がいる クマも出る) 凍った滝  
 (フレベの滝) 荒天でホワイトアウト 流水ウォーク(惑星探検) この浜の氷の下の石は丸い **知床** 「シリエトク」  
 ノート 地の果て 羅臼 流水ダイバー 関さん Floating 漁師の赤木さん オロンコ岩 しれとこくらぶでの部屋名が  
 オロンコ岩だったウトロ **White out** 見えなくなる バン屋でのライブドローイング 中標津(初の全員マスク体験)  
 ふたりしか流水鳴りを知らない **斜里** しれくら 薪ストーブ HEAT 斜里ねぶた テレワーク 人の流れ 空気を  
 入れ変える 薪ストーブ HEAT R334 メーメーカーカーリーは羊を大切に育てて毛を刈り取り肉を食べる アルプ美術館  
 流水の写真家 山崎猛 ジャズのレコードを買いつけに毎日のように新宿へ 流水の上で偶然出会う 奥さんの言葉「流水は  
 神聖なもの」 **寒** 自然の流水物 流れている世界 人の影響があっても止まらない 流水は  
**誰もコントロールできない** 弘前(カーヤドー) 津軽ねぶた 知床に駐在した津軽藩士全滅(その住んでいた  
 アイヌは尻斜路湖へ) ふたりしか流水鳴りを知らない **SOUND ON!** 尻斜路湖 白鳥の越冬(スワンフリージャズ)  
 大鵬(イヴァン・ポリシコ) 硫黄山 知床のアイヌが冬期に暖を取りに来た **地熱 HEAT** ローカル線廃止(鉄道の  
 減少) 人間が食べる **SUSHI** ただよう **Drift=はぐれもの** 形と在り方を変えるものと  
 どうやって付き合っていくか ヨシコさんの話 知床はちょっと前まで漁業・林業・観光業とそれぞれの業界が  
 ゆずらなくて仲が悪かったが、みんなで腹を割って話した結果「知床の自然から恩恵を受けているのは皆同じ」となり自然を  
 守ることで協力しあえるようになった **人はみずから生み出したものに喰われてしまうのか**  
 マネーやコンセプト・理念 言語や技術・社会制度に殺される 殺されないためのアート **人間を食べる**

**Economy** かりそめ 1時的な展示 仮の何か(架空の大地・目に見えないコロナ・影響の  
 不確かな放射能)をめぐる生態系 1時的な 融雪槽という 都市の知られざる存在に光を当て、別の在り方を  
 提案するが、その存在を支えているエコロジーのネットワークも可視化する ヒートアイランドって何だっけ? 降雪量の  
 減少→流氷も減少 SUN LIGHT 都市の熱 **SAPPORO** 札幌の人は除雪車を「カッコいい!」とほれほれ  
 眺める 除雪格差(地域による) 北大(クマも出た) Co-STEP サッポロで唯一内と外がつながる場所  
 (フタを開けた時) 近年は雪が少ないので稼働しないことが多い 天井が低い 石狩川河口はゴミ捨て場になっている  
**融雪槽** (札幌駅地下 地上はバスターミナル) 湿気がかなりあり天井が低い 常に水滴が落ちる 雪のない状態では  
 リバーブが深くかかる オフィスへ **Breathe** 空気を入れ替える! 都市の周縁に雪捨て場(春まで残る)都市の雪  
**Sound On!**(たまにゴミも) 水滴が響く 地下水 街中は地下鉄が発達し、濡れずに移動ができる 街の雪 熱 HEAT  
 エコロジー AIR 外気 融雪槽内部 温泉(クマも出る) 新千歳⇄東京は最大の便数 雪を食べる 融雪槽は胃袋 地下  
 の水で点から水(雪)を溶かす HEAT ゴミ≠雪 都市と郊外のボーダー 中心の核に融雪槽(中央駅) 雪・ゴミ・人が  
 出たり入ったり 細胞としてのサンボ ecology 雪が少なくなっている! 食べ物? 除雪ルートによる街路を使った  
 ドローイング 北海道で沖縄の魚が捕れるようになった(サンマが不漁) **都市の漂流物** 雪は資源か→雪まつり?  
**ハプニング** 雪のイメージを変えるイベント 新潟 信濃川R253 十日町 橋下 河川敷 GGN(4人)(1970)  
 2/11と2/15 1月/2月の別海では牛の出産が相次ぐ 家畜の繁殖は人間の都合で時期が決められる (日本人男性の精子  
 の数は減少している) 北海道の和人はせいぜい3、4世代しか住んでいない 集落ごとに出身地で固まっていた 環境  
 (気候変動た原発事故なども)の変化により生活が影響を受ける 2020 〈札幌国際芸術祭〉仮設としての  
**展覧会** Temporary Party コロナで中止 大きな会場、大きなお金をつかう、1ヶ所集中のこれまでの芸術祭はウイルス  
 によってできなくなる 全く別の在り方の可能性 新しい芸術祭 作家がそれぞれの場所(サイト)で展開する展覧会を  
 総称して“SIAF 2020-23”とする 展示や作品の規模は人それぞれ、できる範囲でやっていく 世界のいろいろな場所に  
 新しい芸術祭の種をまく 芽が出る **COVID-19** 目に見えないウイルス ウイルスって人工物? 自然物? 北海道にも  
 台風と地震 コロナ→人が離れる 離れた人の行き場所 都市近郊の自然 キャンプ 火打ち石から火をおこす 街では管理  
 されている 火を扱う権利 濃厚接触 **SOCIAL DISTANCE** 人による生態系への介入/破壊/  
 影響 **コロナの空気** 人による拡散 部屋に閉じ込められた人間 北海道が一瞬独立国とみなされた エゾ共和国  
 1868 12/15-1869 5/18 流れが阻害されている場所—社会の要請で自然をつくりかえる 世界的な  
 都市のLock Down **都市の熱** 東京オリンピック 東京 TOKYO ジョギングの風景 千葉 東京湾のソーシャル  
 ディスタンス 多摩川のソーシャルディスタンス 夜の貝漁(密猟) ヘッドライトの明かり 夜行虫 青い光 **COVID-19**  
 目に見えないウイルス 社会がルールとマナーでがんじがらめになる 空気を読む AIR 深呼吸ができない! 「コロナ  
 飽きた」というつぶやき **SOCIAL DISTORTION** マスクが買えなかった! マスクが少ないときの  
 周囲の視線… トイレトペーパーを買えなかった! マスクする/しない問題は世界中で起こっている 本州と九州は  
 雨の被害が大きい 環境の変化により、これまでの定説は修正されなければならない 生態系が違うそれを分けるブラ  
 キストン線 ヒグマいる 北海道 青函トンネルにより生態系が乱れキタキツネが青森で発見されているヒグマいない青森